

美瑛町の観光地「青い池」

○直轄火山砂防事業で整備した砂防設備に水が滞留してできた幻想的な風景が、「青い池」として口コミで広がり、TV番組などで紹介されました。近年では観光ツアーに組み込まれるなど新たな観光スポットとなっています。



例年、多くの観光客が訪れるようになった「青い池」（推計 年間35万人）

池が青く見えるのは……

- ・上流の白金温泉地区で湧出しているアルミニウムを含んだ水が、美瑛川の河川水と混じることにより、コロイドが生成。
- ・太陽光が水中のコロイド粒子と衝突し、波長の短い青い光が散乱されるため、青く見えると言われています。

観光情報としてホームページでも多数紹介されています

美瑛町観光協会ホームページ：<http://www.biei-hokkaido.jp/search/sightseeing/viewspot/000035.html>

びえい白金温泉観光組合ホームページ：http://www.biei-shiroganeonsen.com/spot_midokoro.html

十勝岳噴火と砂防事業の取り組み

- 大正15年噴火では熱い岩なだれが残雪を溶かして火山泥流が発生し、死者・行方不明者144名という大災害となりました。
- 昭和63年の噴火を契機に、「火山泥流対策基本計画」を策定し、平成元年より直轄火山砂防事業に着手しています。



大正15年噴火



30～40数年周期で噴火を繰り返す十勝岳

死者・行方不明144名

死者5名・温泉観光客
自衛隊の誘導で避難

白金地区に避難命令発令
住民の避難生活127日間

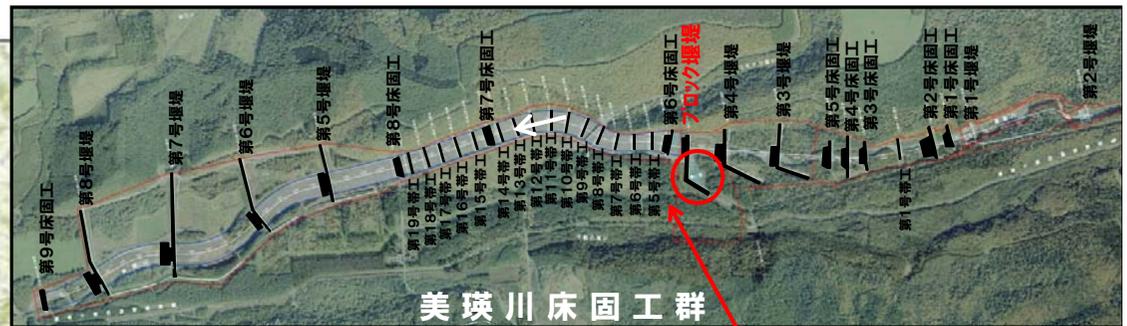


直轄事業の契機となった
昭和63年噴火

- 直轄火山砂防事業として最初に取り組んだブロック堰堤。緊急性を要するため平成元年に着手し、約6ヶ月という短期間で完成しました。
- このほか、火山泥流の広がりを防ぐ導流堤、侵食を防止する床固工、火山泥流せき止める砂防堰堤、火山泥流安全に流す流路工などの整備しています。



大正15年噴火による融雪型火山泥流の流下範囲



美瑛川床固工群



大正15年噴火による被害状況



火山泥流の勢いを弱める砂防設備

① **床固工** とこがためこう
 侵食を防ぐ しんしょく ふせ




② **導流堤** どうりゅうてい
 泥流が広がるのを防ぐ でいりゅう ぬいりゅうがひろがるのを防ぐ




写真提供：旭川土木現業所

上流では、侵食を防いで土砂が増えるのを抑えたり、泥流が周りの森林に広がって流木が増えるのを防ぐような施設が造られています。

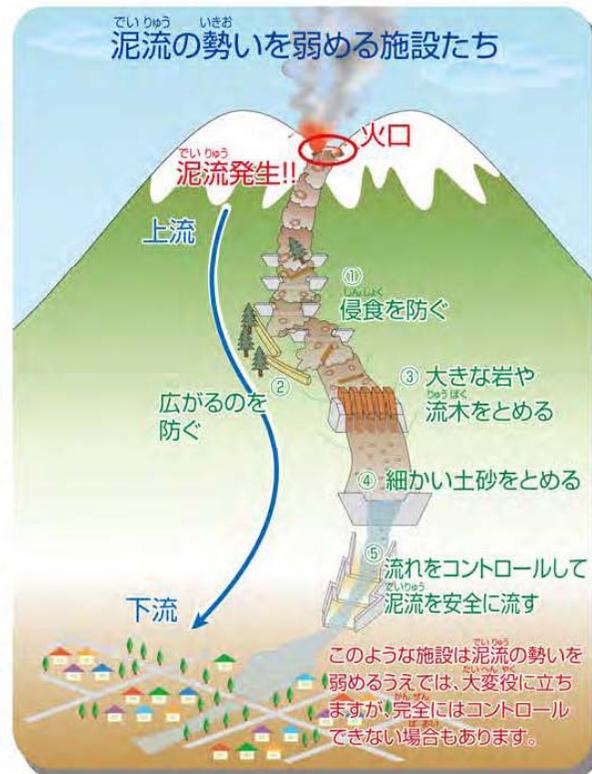
③ **透過型えん堤(ダム)** とうかがた
 主に岩や流木を止める いわ りゅうぼく




中流では、主に大きな岩や流木を止めます。普段は細かい土砂を通過させますが、泥流が発生した時に岩や流木がえん堤に詰まると、たくさんの土砂もためることができます。



富良野川の中流に造られた富良野川2号透過型ダム



④ **砂防えん堤** さぼうえん堤
 せき止める




(2005年撮影)

下流では、小さな石や砂をため、勢いを弱めます。

⑤ **流路工** りゅうろ 安全に流す
 泥流の通り道(河道)を固定させて、流れをコントロールし、安全に下流へと流します。

